

JSR 株式会社

2020年3月期第1四半期決算説明電話会議 議事録

(2019年7月29日開催)

決算補足資料: [http://www.jsr.co.jp/pdf/ir/r01\\_2020/r01\\_3\\_h\\_d14h.pdf](http://www.jsr.co.jp/pdf/ir/r01_2020/r01_3_h_d14h.pdf)

**P1 決算ハイライト1** FY19Q1 実績

- ・FY19Q1 は厳しい事業環境であったが、今年度通期計画に対して、ほぼ計画線の実績となった。
- ・エラストマーは、合成ゴム市況が低迷し、販売量及びスプレッドの悪化要因となった。
- ・合成樹脂は、拡販に努めたものの、自動車向け需要の減少の影響を受けた。
- ・デジタルソリューションは、需要業界の生産調整が継続している中、計画対比、安定した進捗を果たした。
- ・ライフサイエンスは計画通り販売が大幅に拡大した。

**P2 決算ハイライト2** 各事業の対前年同期 (YoY)、対前期(QoQ)の比較

- ・YoY 減収減益、QoQ 減収増益となった。
- ・YoY は、デジタルソリューション、ライフサイエンスが増収増益となった。
- ・デジタルソリューションは、半導体材料、ディスプレイ材料の関連市況が下落し、顧客業界の稼働調整も行われている中、売上はほぼ前年並みを維持した。エッジコンピューティングが売上を伸ばした。
- ・ライフサイエンスは、販売は大幅に拡大。FY18Q1 は、買収した Crown 社の連結化が2018年6月初からのため売上計上は1ヶ月分であった。それに対し、FY19Q1 は3ヶ月分計上された。しかしそれを除いても CDMO 事業始め拡大した。
- ・エラストマーは、市況の大幅悪化及び中国自動車市場の低迷等の影響を受け大幅な減益となった。
- ・合成樹脂は若干の減益となった。
- ・QoQ 約2倍の増益となった。
- ・FY18Q4 は環境引当金、LIC 減損、Crown の無形固定資産償却の一括計上等特殊要因による減益があった他、年間の諸経費がFY18Q4 に集中していたものがFY19Q1 は通常並みになった。更に、半導体、ディスプレイ業界は1-3月期大きな稼働調整があったが、FY18Q4 を底として、FY19Q1 は回復が見られた。

### **P3 セグメント損益 エラストマー事業**

- ・セグメント別損益のエラストマー事業。

#### 環境

- ・国内タイヤ生産はプラス成長も弱含んだものとなった。タイヤ販売は米国、中国、欧州が新車向けでマイナス成長。世界の自動車生産もマイナス成長。特に中国の自動車生産は 18 年 11 月以降 YoY80%台まで落ちている。総じて需要環境は減速が当期も続いた。
- ・合成ゴム市況は、主要原料であるブタジエンが、FY19Q1 平均 979 ドル/トンと下落。昨年比ではナフサ価格（MOPJ）とのスプレッドが半分以下に縮小。その他の主要原料も軒並み下落基調だった。

#### YoY

- ・営業利益は対前年-88%と大幅に減少。
- ・差異分析では、数量は需要後退により全体で昨年比減少。一方 SSBR の販売は伸長し数量差はフラット。価格差が-19 億円。前述のブタジエンナフサスプレッドの縮小による売買スプレッドの悪化、又、高い原材料の払い出しによる在庫受払差の影響。

#### QoQ

- ・減収増益となった。
- ・販売数量は減少。需要環境としては FY18Q4 から変化はなし。Q4 は季節性の需要期に当たるため、その反動で当期の数量が減少した。その他前期の特殊要因の剥落や固定費の発生差異等により FY19Q1 は増益となった。

### **P4 セグメント損益 合成樹脂事業**

- ・セグメント別損益 合成樹脂事業。

#### (環境)

- ・ABS 樹脂の需要環境は、汎用市況は下落。主要顧客業界である自動車業界は昨年後半から販売が低調に推移。
- ・原料市況は、主要原料であるスチレン、ブタジエン、アクリロニトリルは、FY18Q2 まで価格上昇を続けたものの、Q3、Q4 と下落。FY19Q1 に若干の持ち直し。

#### YoY

- ・営業利益は 2 億円の減。実質的にはフラット。販売数量は輸出で減少したものの、昨年対比で製品価格の改定が進み数量減をカバーした。在庫の縮小で会計上の受払差が発生し減益要因となった。

#### QoQ

- ・数量は国内、輸出とも増加した。

・一方、価格差は-14 億円。顧客向けの製品価格は原料価格に対し 3～6 月のタイムラグで適用される。今回 FY18H2 の原材料価格下落が製品価格に転嫁された。一方、FY19Q1 は原料価格が持ち直しておりこの上昇分がコスト増に作用した。原料市況変動のタイミングによりマイナスの影響を当期受けた格好。

#### **P5 セグメント別損益 デジタルソリューション事業**

・セグメント別 デジタルソリューション事業。

(環境)

- ・需要業界は、デバイス価格の下落など不透明感の中、半導体、ディスプレイ業界とも低調に推移した。
- ・半導体業界は、CY19 の半導体の金額ベースでの成長がマイナスで見込まれる。ディスプレイ業界は、6 月時点 CY19 パネル出荷面積見通しは YoY+1%に留まる見込み。
- ・一方、FY18Q4 との対比では需要業界に回復が見られた。

YoY

- ・売上収益は半導体材料がフラット。主要材料は前年割れとなったが、洗浄剤が順調に拡大、又実装材料も好調であった。
- ・ディスプレイ材料は、若干減。配向膜、絶縁膜など主要事業は中国向けなどに数量を拡大したものの、顧客全般では稼働調整の影響を受けた。
- ・エッジコンピューティング材料は、アトーンが販売を伸ばした。
- ・営業利益は、対前年で僅かではあるが増益を確保した。

QoQ

- ・売上収益、利益とも大幅に改善した。各事業利益が改善している。FY18Q4 は、半導体業界、ディスプレイ業界とも市況下落に対応した稼働調整が行われていた。当期も顧客業界の稼働調整は継続したものの、FY18Q4 対比では回復が見られた。
- ・FY18Q4 は主に半導体材料でコストの集中的な発生があったものの、今期はその分減少したため、その分も増益に影響した。

#### **P6 セグメント別損益 ライフサイエンス事業**

- ・当分野では自社材料の展開に加え、MBL、KBI、SELEXIS、Crown 等関連する企業に出資し、戦略的な基盤を整えた。Crown は 2018 年 6 月以降当決算に反映されている。
- ・顧客市場であるバイオ医薬品市場は年率 10%前後で安定して成長している。当社はユニークな製品・サービスで市場成長を大きく上回る成長を遂げている。

YoY

- ・売上高は+37%と大きく拡大。KBI,SELEXIS の CDMO 事業、自社材料のバイオプロセス材料（Amsphere A3）は順調に拡大。診断薬・中間体の販売の安定的に推移。2018 年 6 月から連結の Crown は、FY19Q1 は 3 ヶ月分寄与。YoY で販売は拡大している。
- ・営業利益は大幅に改善し増益。但し今回利益の半分強は今年度予定利益の前倒し計上及び人の採用等の固定費発生の後ろ倒しによる。利益前倒しは、顧客とのプロジェクトにより利益計上タイミングが早まったもの。

QoQ

- ・売上高は+6%と拡大。顧客とのコントラクト拡大により基本的な増収トレンドに変化はない。利益は、FY18Q4 は Crown の PPA による償却費の一括計上等があった一方、今期は販売増による増益の他、上述の前倒し利益により大幅な増益となった。

#### **P7 連結損益計算書 (YoY)**

- ・FY19Q1 は、対前年-2%の減収。
- ・売上総利益は-1%の減益。
- ・販売費・一般管理費は対前年+8 億円。販売費、人件費等の増加。
- ・営業利益は 100 億円。対前年-15 億円。
- ・法人所得税を引いた当期利益は 80 億円、非支配持分の利益を引いた、親会社株主の当期利益は 73 億円。

#### **P8 連結財政状態計算書 (vs FY18/E)**

- ・資産合計は、6779 億円となり、前期末から 135 億円減少。
- ・流動資産は、前期末から 170 億円の減少。
- ・非流動資産は、前期末から 35 億円の増加。有形固定資産には IFRS のリース会計適用を含む。
- ・負債は、2418 億円となり、前期末から 93 億円減少した。
- ・流動負債は、233 億円減少。
- ・資本は 4361 億円で、42 億円の減少。当期利益の増加、自己株買い、配当金支払い。

#### **P9 通期予想**

- ・当年度の通期予想に当初計画から変更はなし

(足元の各事業の需要環境)

## エラストマー

需要環境は FY18H2 から FY19Q1 も継続して悪化した。世界の自動車生産は前年割れの状況が続く。タイヤ販売も弱い。合成ゴム市況は、計画前提のスプレッド\$550 に対して FY19Q1 のスプレッドは\$438 と下落。米中貿易摩擦等不透明要因もあり、厳しい環境は継続する見通し。

一方、SSBR は FY19Q1 も堅調な伸びを維持。FY19Q2 以降も引き続き成長を維持できると見込む。合成ゴム全体の販売も下期に向けて需要期となるので、数量は伸びていく見通し。

ハンガリー工場は 4 月に完工し試運転に入った。今年度下期にサンプル生産、年度末に商業生産の計画に現時点で変更なし。今年度は当事業のグローバル化に向けた転換点であり、粛々と立ち上げに邁進していく。

## 合成樹脂

ABS 樹脂は、自動車需要減速の影響を受けたが、当社の特殊 ABS 樹脂は比較堅調を維持した。原料価格が変動しており短期的な利益は影響を受けるが、着実な拡販と製品価格の改定も続けていき、当年度についても安定した利益の獲得を目指す。

## デジタルソリューション

半導体は市況が弱含んでおり、メモリーなど顧客業界の生産調整は続く見通し。一方、FY18Q4 を底として顧客も徐々に稼働を戻してきており、徐々に巡航速度に戻ってくると見込む。当社は最先端ラインでシェアを拡大しており、FY19 も引き続き市場を上回る成長を達成する。洗浄剤、実装材料等リソ材料以外の採用も拡大しておりポートフォリオの成長も売上増に貢献する。

ディスプレイ材料は、顧客のパネル工場は、半導体同様、FY18Q4 に稼働調整があった。FY19Q1 は戻したものの生産調整自体は続いている。パネル価格は下落基調にあり、当面は調整局面が継続する可能性がある。当社は、G10.5 等大型パネルを最新鋭プラントで立ち上げる中国市場に特化し、販売を拡大させており、当期も主力製品の拡販を進めていく計画。

## ライフサイエンス

FY19 も大幅は増収を計画しているが FY19Q1 は順調に拡大、FY19Q2 以降も順調に進捗していく見通し。FY19Q1 は利益の一部前倒しで高上げされたため、FY19Q2 の利益は切り下がる方向であるが、年度の利益計画は達成可能。FY20 には更なる利益レベルの切り上げを見込む。FY19 の販売で既存のキャパシティがフル稼働になる見通しであり、2020 年台前半までを見越した能力増強を今年度実施する計画を推進中。

上述のとおり、当期は厳しい環境下、利益はほぼ計画線を達成することができた。今後の需要環境についても、全般に不透明な状況は続く見通しであり、又、各事業セグメントによってその影響度合いに違いもある。それぞれの事業拡大テーマを着実に進めると共に、全社として当期の通期目標利益が達成できるよう取り組んでいく。

以上